

A light blue world map is centered in the background of the slide. The text is overlaid on the map.

海外の図書館情報学教育の動向

第61回日本図書館情報学会研究大会シンポジウム
これからの図書館情報学教育を考える

三輪 眞木子 (放送大学)

2013.10.13 東京大学

アウトライン

- 海外の図書館情報専門職教育の動向
- 日本の図書館情報専門職教育再編の取組
- 国際的な学位・資格の相互認証の動向
- 海外のカリキュラム動向調査
- 日本の図書館情報専門職教育国際化の課題

海外の図書館情報専門職教育の動向(1)

- 各国の個々の図書館情報専門職プログラムの比較研究

(Atan & Williams, 1987; Chaudhry, 1988; Jin, 1999; Lin, 2007)

- 学部教育から大学院教育への転換
- 教育プログラムの名称を「図書館学」から「図書館情報学」に変更
- 情報通信技術を扱うコース(授業)の増加
- 図書館から情報関連業界への就職先の拡張

海外の図書館情報専門職教育の動向 (2)

• アジア・アフリカ地域の特徴

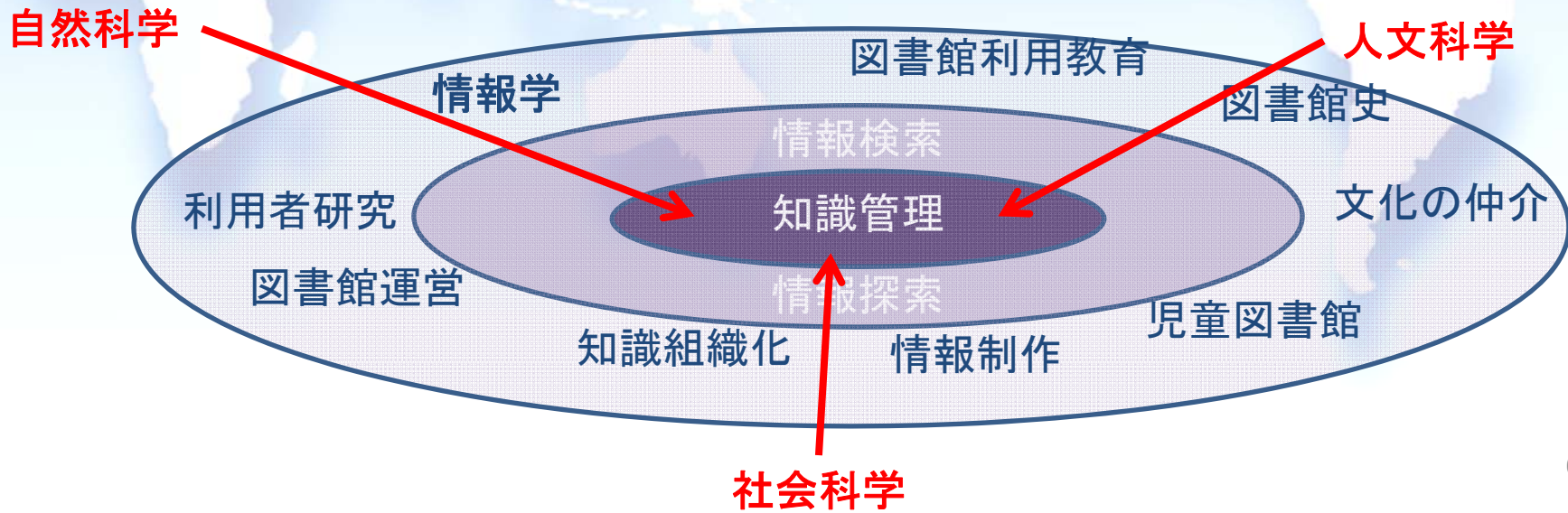
- アジア地域は北米の影響が大きい: 担当教員の多くが北米で教育を受けたため (Lin, 2007).
- アフリカ地域は英国とヨーロッパの影響が大きい: 植民地時代に教育プログラムが設置されたため.
- 発展途上国の図書館情報専門職教育の共通課題:
 - 有資格教員の不足,
 - コンピュータや通信に関する施設・設備の不足,
 - 読解力不足⇒公共図書館の需要が低い,
 - 講義型教育を採用⇒学校図書館の需要が低い.

海外の図書館情報専門職教育の動向 (3)

- KALIPER プロジェクト (1998-2000) による北米の図書館情報専門職教育プログラムの包括的な調査結果 (Pettigrew & Durrance, 2001).
 - 情報化に対応するためのより広い教育枠組の開発,
 - 教育内容の多領域化,
 - 情報技術インフラの強化,
 - カリキュラム革新の支援に効果的な技術を採用,
 - 遠隔教育の効果的な配信と柔軟化
 - 利用者志向のカリキュラムの増加.

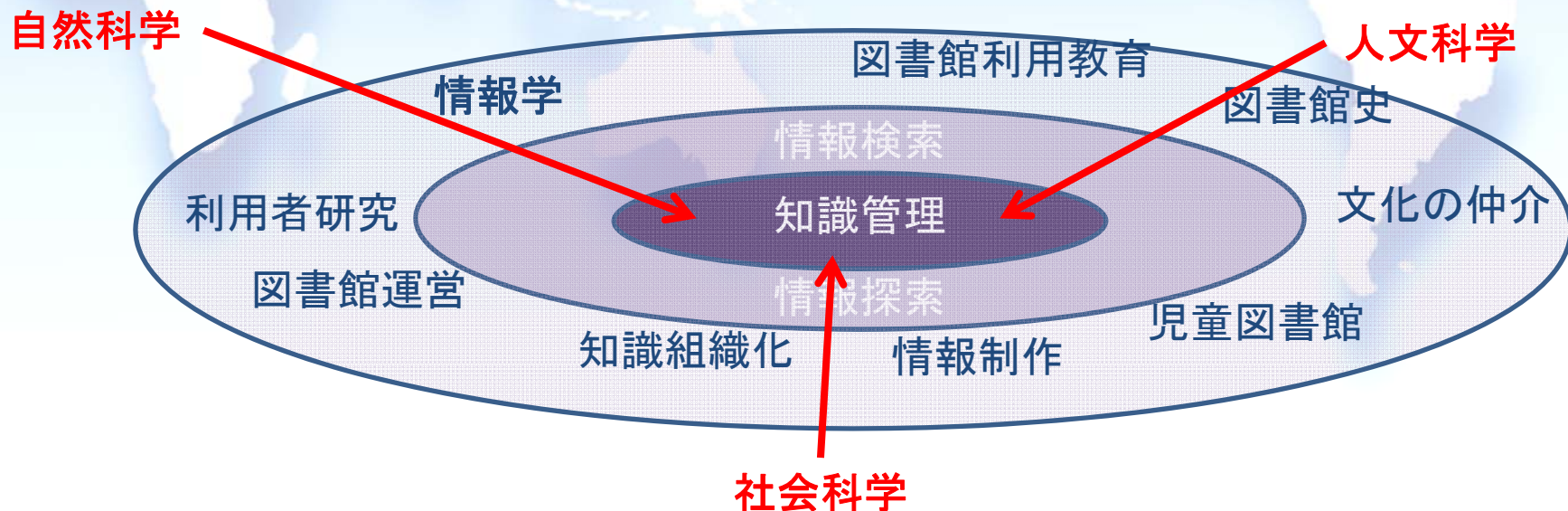
海外の図書館情報専門職教育の動向 (4)

- European Curriculum (Kajberg & Lorrington, 2005).
 - 図書館学校の発展 => 研究志向の大学,
 - 図書館情報学のユニークな3領域:
 - 知識組織化 (Knowledge organization)
 - 情報利用行動 (Information use behaviour)
 - 情報検索 (Information retrieval)
 - カリキュラム開発のらせんモデル (北米モデル)
 - 専門職独自のスキル => 実践に応用できる理論的知識



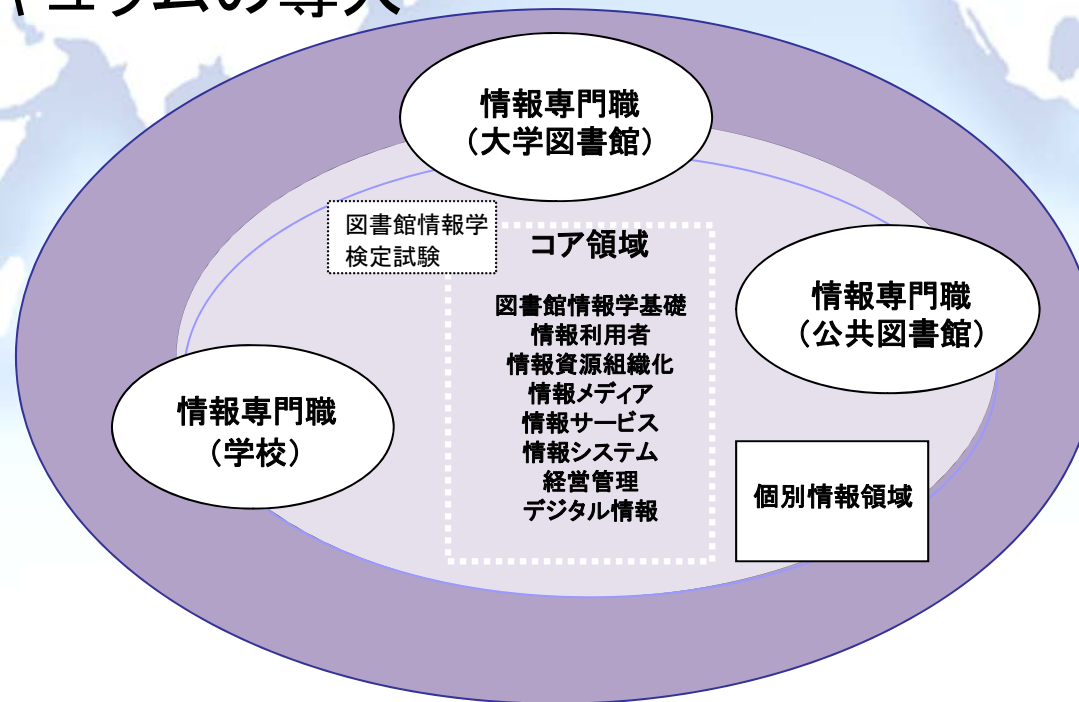
海外の図書館情報専門職教育の動向 (4)

- European Curriculum (Kajberg & Lorrington, 2005).
 - 図書館学校の発展 => 研究志向の大学,
 - 図書館情報学のユニークな3領域:
 - 知識組織化 (Knowledge organization)
 - 情報利用行動 (Information use behaviour)
 - 情報検索 (Information retrieval)
 - カリキュラム開発のらせんモデル (北米モデル)
 - 専門職独自のスキル => 実践に応用できる理論的知識



日本の図書館情報専門職教育再編の取組

- LIPER プロジェクトの提言 (Ueda et al., 2005; Miwa, et al. 2006).
 - (1) 学生が図書館情報専門職教育で学んだことを自己評価するための図書館情報学検定試験の実施;
 - (2) 6つのコア領域を重点とする図書館情報専門職の新たな標準カリキュラムの導入



国際的な学位・資格の相互認証制度(1)

北米

- 1956: ALAの認証委員会が米国・カナダ・プエルトリコの修士課程プログラムを認証
- 2000: 他国の適切な団体により認定された修士号の等価性を条件付きで認める

イギリス

- 伝統的に図書館協会がLIS専門職学位を認定
- 2002: 図書館協会 + 情報専門家協会 = CILIP
- 2005: CILIPが資格認定の新たな枠組み発表
- イングランド・ウェールズ・スコットランドの大学院プログラムを認証
- 北米ALA・オーストラリアALIAと学位を相互認証

オーストラリア

- ALIAがLIS専門職教育課程認証で主要な役割を担う
- 修士ディプロマ(1年間の科目履修で習得できる)がLIS専門職の最低条件

東南アジア

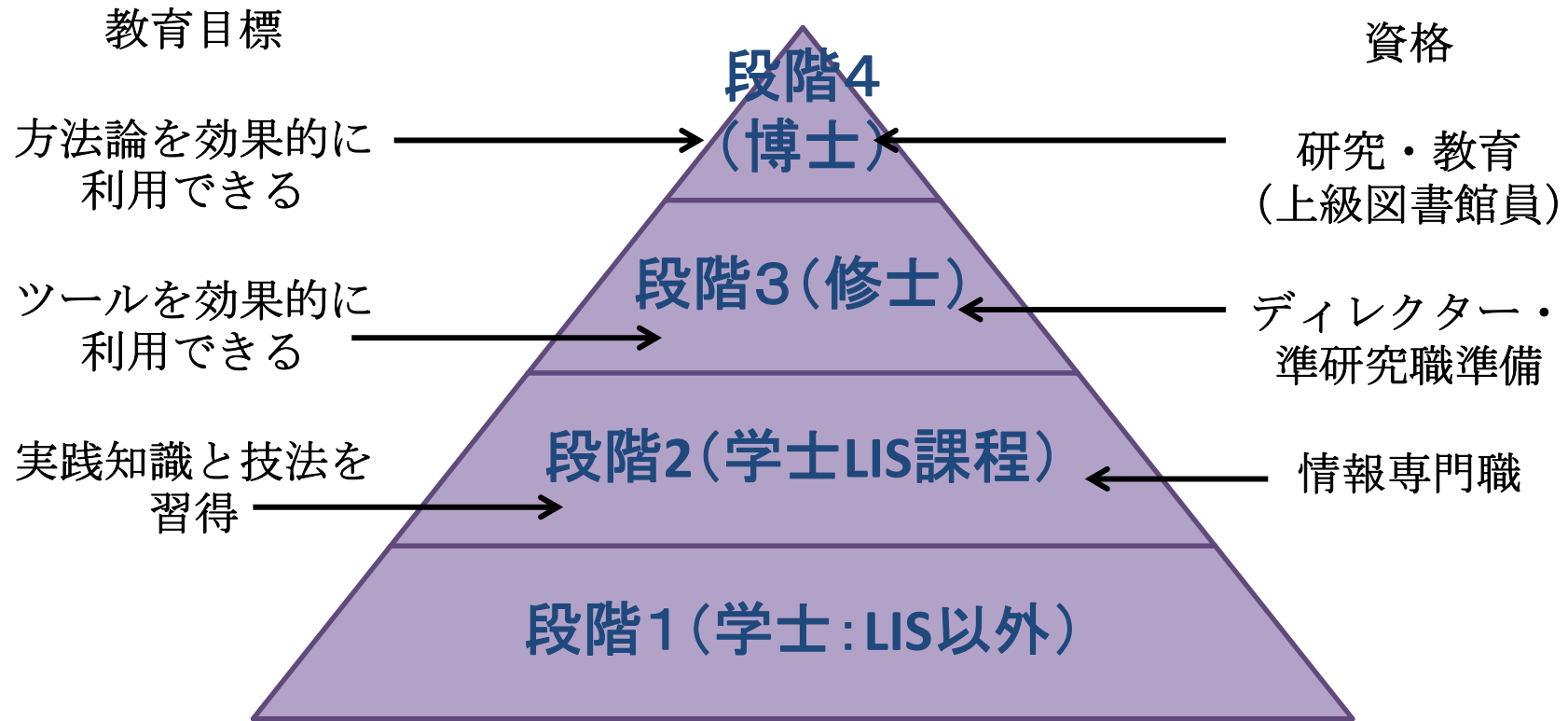
- 2002: CONSAL加盟国対象のLIS専門職教育質保証制度構想を発表
- 第一段階では修士号、第二段階では学士号が対象
- 教育の多様性、中核機関の不在、資金不足が課題

国際的な学位・資格の相互認証制度(2)

IFLA教育訓練分科会での議論

- 国際的な図書館情報専門職の国際的移動を促進する制度設計
- 1977: 専門資格の比較可能性と等価性の研究開始
- 1987: 専門職資格の透過性と互換性ガイドライン発表
- 2004: 図書館情報専門職教育質保証モデル調査実施
- 規範的評価に基づく質保証⇒学習アウトカムに基づく質保証へ
⇒各国が図書館情報専門職に求められるコンピタンシを定義

ヨーロッパLISプログラムのボローニャプロセスとの対応



LIS領域の基本的な方法論

- ・ 認識論
- ・ コンピュータ科学
- ・ 言語学/哲学
- ・ 社会研究
- ・ 研究手法
- ・ ビブリオメトリックス

ボローニャ合意との対応

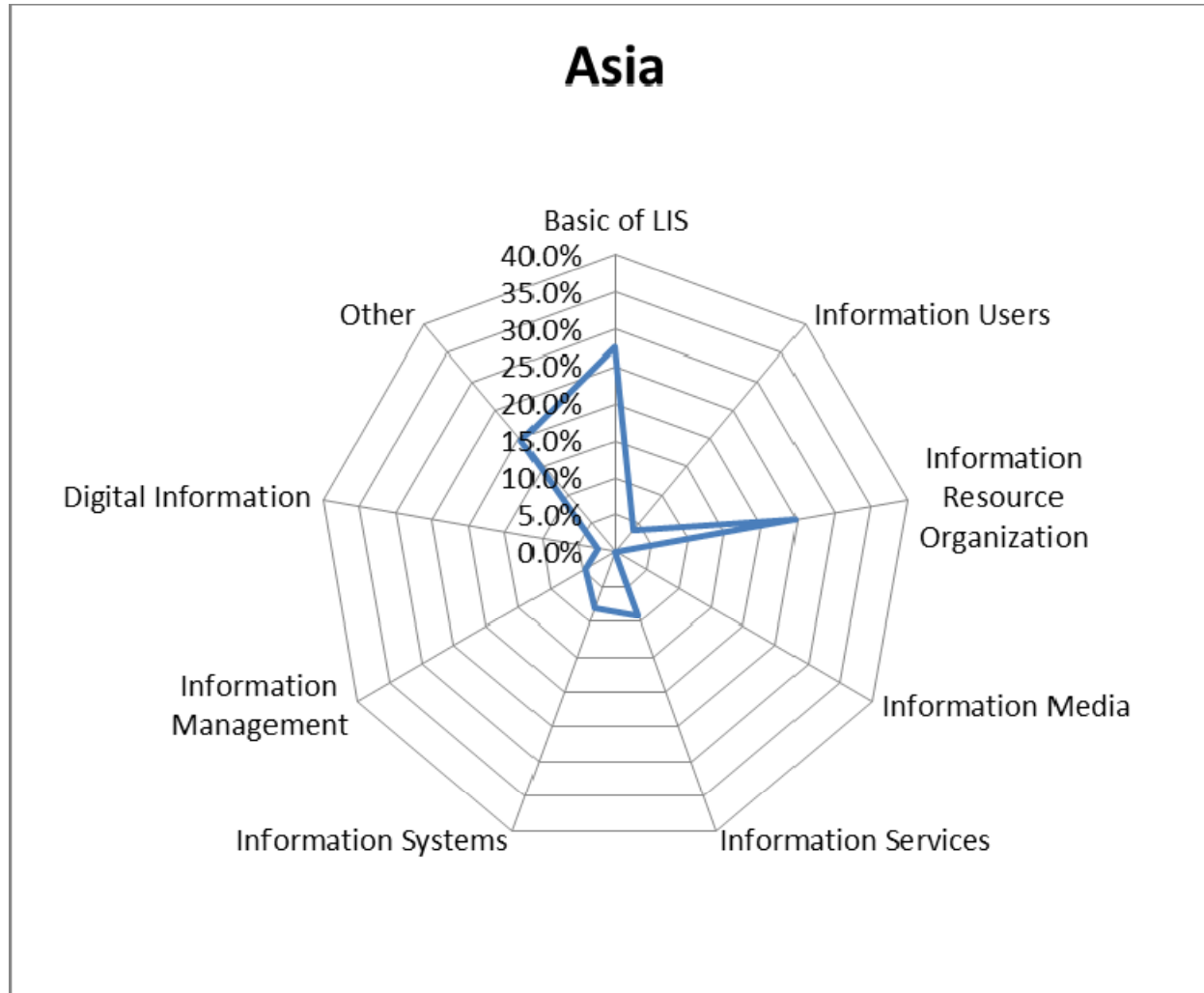
- ・ 学士レベル：最低3年 (180-240ECTS*)
- ・ 修士レベル：最低2年 (60-120ECTS*)
- ・ 博士レベル：最低3年 (180ECTS*)

*ECTS：ヨーロッパ諸国の異なる単位数を年60単位 (1,500~1,800時間) と換算する制度

海外のカリキュラム動向調査：方法

- 国際的な協力によるデータ収集を通じたデータベース構築
 - コア・コースに限定
 - 修士レベルの図書館情報専門職教育
 - <http://www.globalis-net.com/db/inputs/Input>
 - 18カ国、34教育プログラム、286コース（モジュールを含む）
 - LIPER提言の枠組みに沿ってコース（モジュール）を分類
 - 構成比算出：プログラム⇒国⇒地域

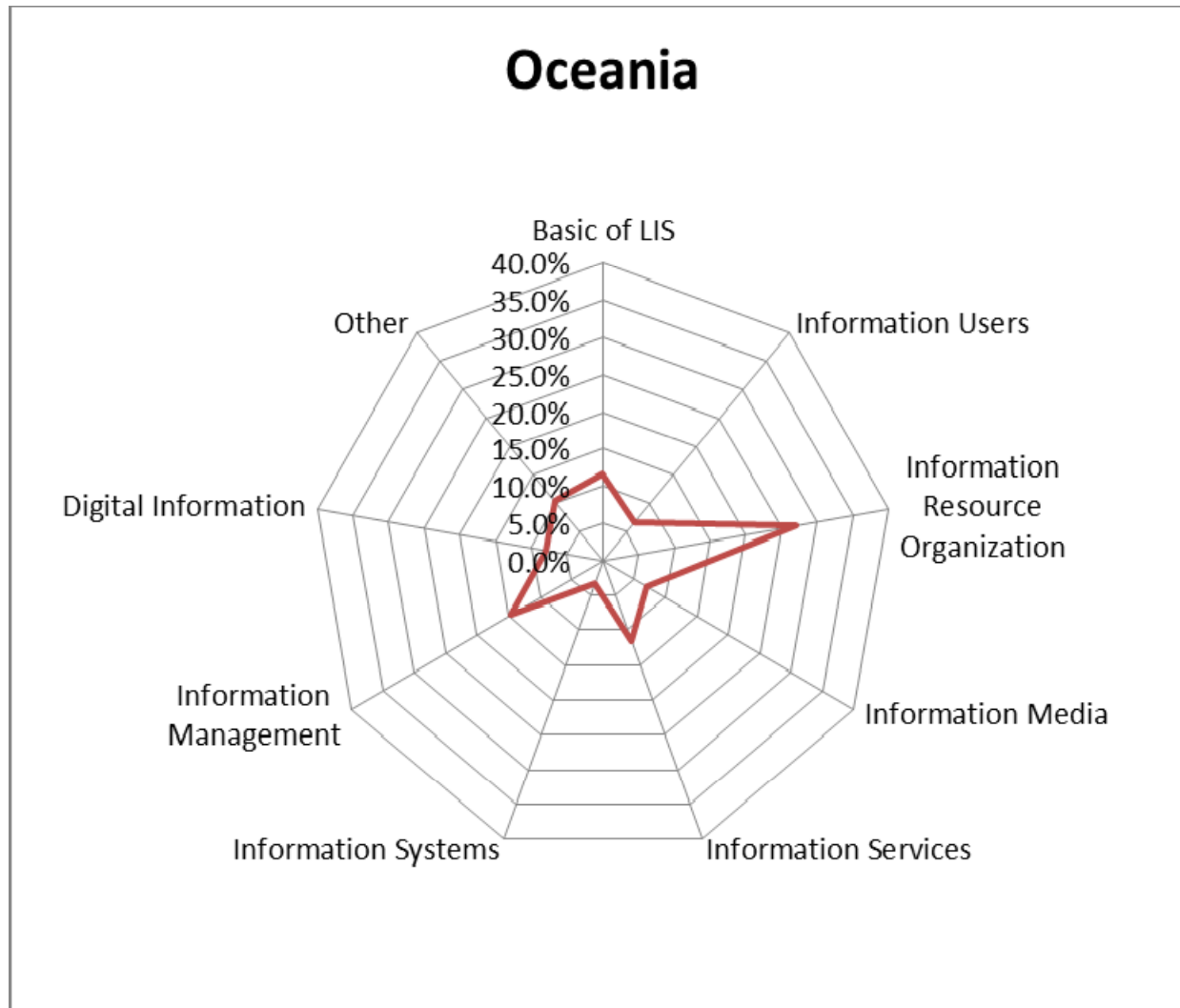
海外のカリキュラム動向調査：結果 (1)



アジア地域

- 図書館情報学基礎(入門コース)が多い
- 情報資源組織化が多い(印刷媒体中心)
- その他が多い(修士論文を必須としているプログラムが多いため)

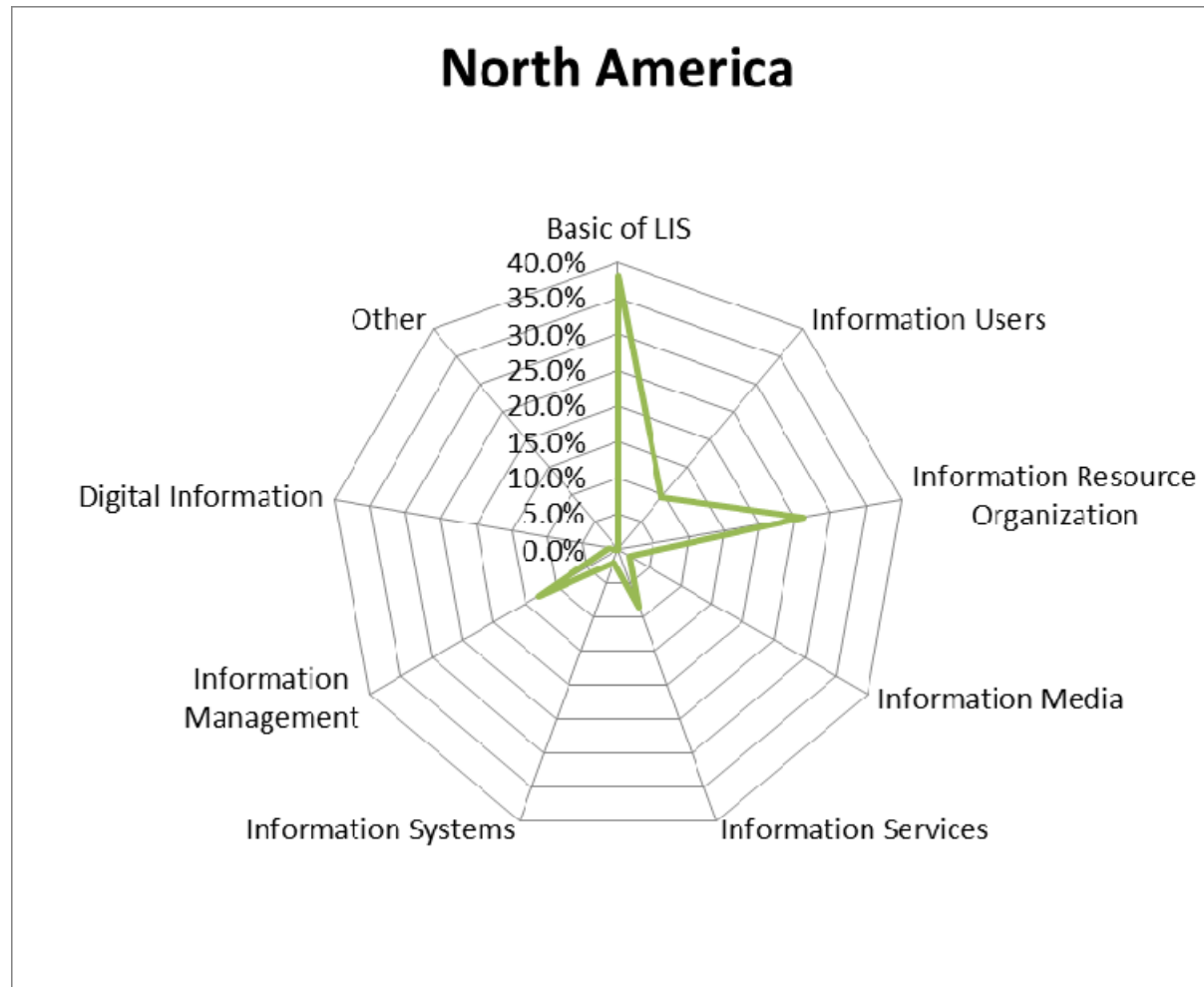
海外のカリキュラム動向調査：結果 (2)



オセアニア

- 情報資源組織化が最も多い(テクニカルサービスを重視する伝統)
- 経営管理が多い
- 情報サービスが比較的多い

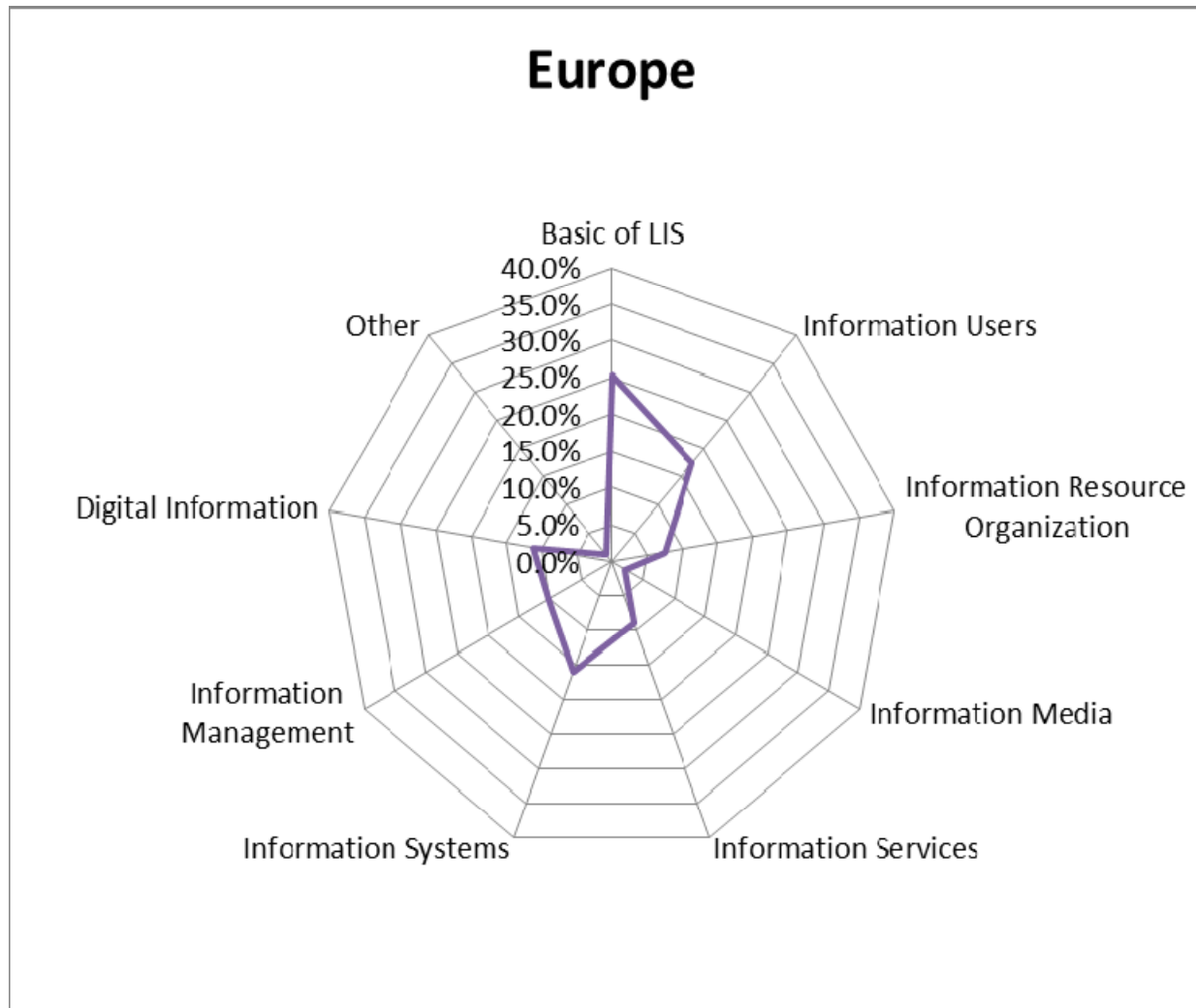
海外のカリキュラム動向調査：結果 (3)



北米

- 図書館情報学基礎が多い(調査研究法のコースがあるため)
- その他は皆無(標準化が進んでいるため?)

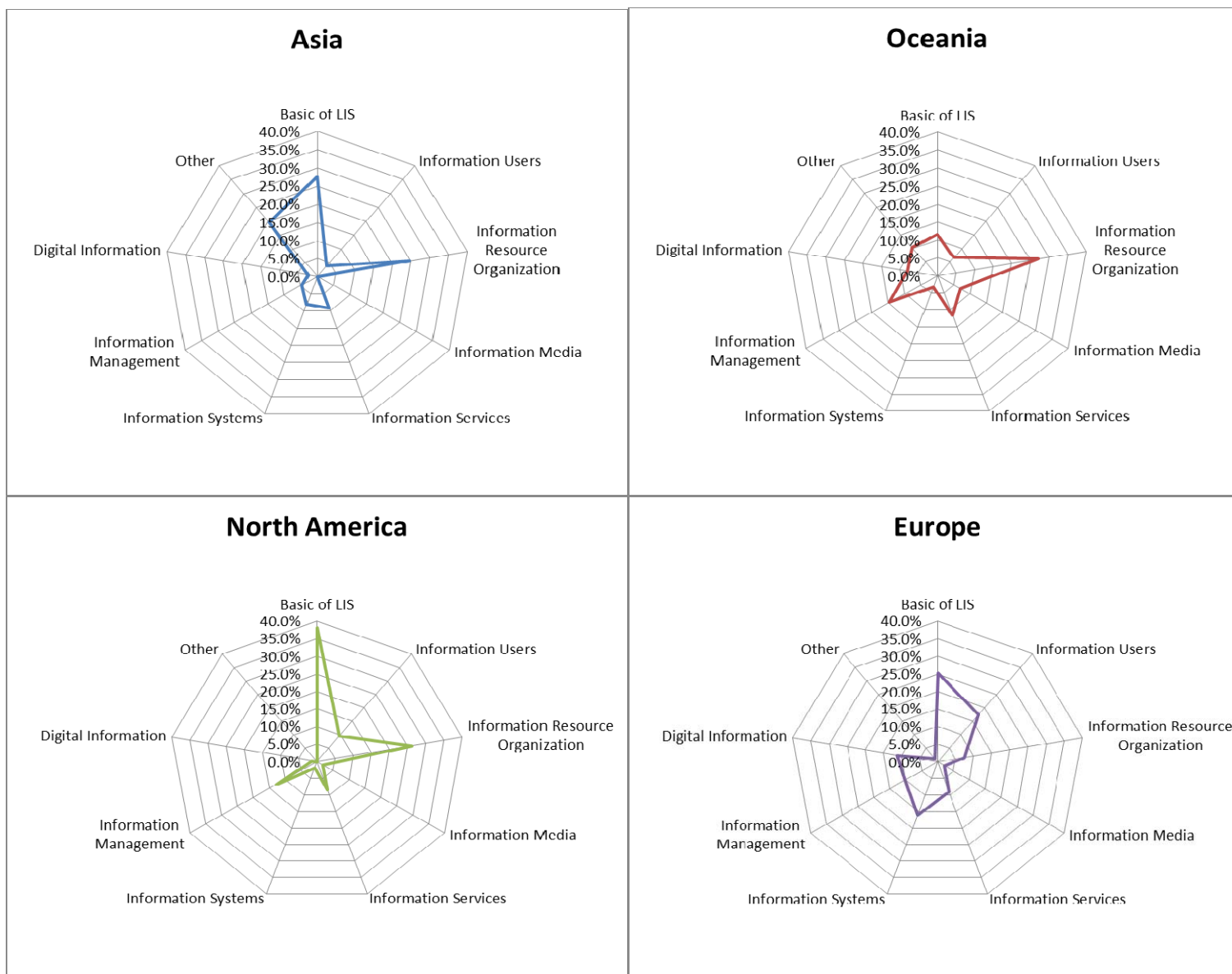
海外のカリキュラム動向調査：結果 (4)



ヨーロッパ

- 情報利用者の比率が高い (情報の社会的側面を重視)
- 情報システム比率が高い
- デジタル情報比率も高い

海外のカリキュラム動向調査：まとめ(1)



海外のカリキュラム動向調査：まとめ(2)

- 専門職資格が館種別に認定されている国はない
- 伝統的な印刷媒体中心のプログラム(アジア地域)と新たに出現したICT中心のプログラム(北米)の両極化
- 北米はiSchoolのプログラム(ICT中心)で調査研究手法と電子情報資源の組織化を重視
- アジアは、伝統的図書館学プログラムと新たなiSchoolの両極化
 - 伝統的なプログラムは印刷媒体中心で修士論文を要求
 - 図書館資料デジタル化の遅れ・有資格教員の不足
 - 新たに出現したiSchoolは、ICTによる知識管理を重視
- ヨーロッパは、文化遺産のデジタル化をめざす
 - 図書館・博物館・アーカイブズを統合
 - 利用者行動とICTスキルと知識を重視

日本の図書館情報専門職教育国際化の課題

- 図書館情報専門職教育の質保証に向けた国際連携の条件
 - (1) 日本の図書館情報専門職教育システムの国際的な透明化
 - (2) 図書館情報領域を包括する資格制度の構築
 - (3) 図書館情報専門職のコンピタンス定義に基づくアウトカム査定
 - (4) 国際的に等価性のある修士レベルカリキュラムの開発
 - (5) 図書館情報専門職資格の国家間相互認定を担当する組織の設置